広島県北広島町（国内 10 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 3 月 12 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 8 万羽）

発生家きん舎の構造：高床式開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（ひな壇式 3 段ケージ 6 レーン、通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は山間部に位置し、農場周囲は森林に囲まれていた。農場内には沈砂池があり、農場の横には川が流れていた。
- ② 近隣にはため池などがほとんどなく、調査時に周辺で確認されたカモ類は、南に約 1.7km 離れた河川で水面から飛び立つ 4 羽のマガモのみであった。
- ③ 農場周囲や敷地内ではカラス類が多く、農場周辺の上空を飛翔する個体、農場敷地内にある樹木にとまっている個体、水の残った水田で水浴びをする個体など、約 150 羽が確認された。
- ④ 当該農場には、成鶏舎 7 棟（うち 1 棟空舎）、育雛舎 1 棟、堆肥舎 2 棟、飼料舎 1 棟、事務所兼 GP センター 1 棟があった。各成鶏舎の 2 階部分は通路でつながっており、発生鶏舎は中央付近に位置していた。

3 通報までの経緯

- ① 農場主によると、発生鶏舎（通報時 357 日齢）における過去 21 日間の 1 日当たりの平均死亡数は 3 羽程度であったとのこと。
- ② 3 月 11 日の午後の見回りの際に、発生鶏舎の中央付近の複数ケージ（約 1m の範囲内）で鶏 12 羽がまとまって死亡しているのを確認したため、同日、家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、農場主によると、通報の数日前から産卵率の低下が確認されていたが、それ以外は目立った異状はなかったとのこと。
- ③ 調査時、発生場所付近で死亡鶏や元気消失を呈する鶏を複数認めめた。なお、それ以外の場所では、他の鶏舎を含め、特段の異状は認められなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場主を含め従業員が 15 名おり、6 名が鶏舎での飼養管理、他の 9 名は GP センターでの作業に従事していたとのこと。
- ② 鶏舎管理の 6 名については、担当鶏舎は特に決まっていなかったとのこと。GP センターを担当する 9 名は同 GP センターでのみ作業を行い、鶏舎に立ち入ることはないとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 農場入口には立入禁止看板が設置されており、車両が農場に入る際は、入口に設置されたゲート式消毒装置で車両消毒を行っているとのこと。農場敷地の周辺には柵などはなかった。
- ② 農場主によると、2 週間に 1 回の頻度で農場敷地内に消石灰を散布していたとのこと。
- ③ 農場主によると、従業員は車で通勤しており、農場入口で車両消毒後、衛生管理区域内に駐車し、事務所で手指消毒、更衣、長靴の履替えを行うとのこと。なお、外部業者（卵の出荷業者、飼料運搬会社等）が来場する際は、入場時の車両消毒の実施は確認しているが、手指消毒、更衣、長靴の履替え等の実施状況は把握していな

いとのこと。

- ④ 農場主によると、入場記録簿は作成しておらず、入場者は納品書で確認しているとのこと。
- ⑤ 成鶏舎7棟に入るための従業員入口は2か所あり、鶏舎内で作業する際は、それぞれの入口で消石灰の踏込み槽を通過し、鶏舎内専用の作業手袋を装着していたが、長靴の履替えは行わないとのこと。なお、農場主によると、堆肥舎等の鶏舎外で作業してから再度鶏舎に立ち入る際は、手袋の交換はしていないとのこと。
- ⑥ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを実施しており、オールアウトの際は鶏舎内を清掃・消毒し、6週間程度の空舎期間を設けるとのこと。また、鶏舎内の清掃は週1回程度行っていたとのこと。
- ⑦ 鶏舎の壁面及びモニターの窓には、金網（網目は約4×5cm）とロールカーテンが設置されており、冬季は基本的に全てのカーテンを閉め切っているとのこと。調査時、窓、金網及びカーテンには、閉鎖できない、破損している等により、小動物が侵入可能と思われる箇所が複数確認された。
- ⑧ 飼料は、飼料運搬業者により衛生管理区域内の飼料舎に納入された後、従業員が自家配合しているとのこと。飼料舎は一部外壁がない箇所があり、配合装置は配合時に飼料が露出する構造であった。配合された飼料は、各鶏舎の前に設置してあるタンクを経由してパイプラインで供給される構造になっていた。
- ⑨ 給与水は、次亜塩素酸ナトリウムで消毒した井戸水を使用しているとのこと。
- ⑩ 鶏糞は、高床式鶏舎の1階部分に堆積させ、3か月に1回の頻度で重機を用いて集糞し、各鶏舎のバンクリーナー及びベルトコンベアにより、農場内の堆肥舎に移動させているとのこと。
- ⑪ 死亡鶏と不良卵は、1日2回の見回りの際に回収し、堆肥舎で鶏糞と一緒に堆肥化しているとのこと。
- ⑫ 堆肥舎には外壁はなく、防鳥ネットも設置されていなかった。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、農場内の沈砂池で野鳥を見かけるとのこと。調査時、農場周囲及び敷地内ではカラスやスズメ等の小型の野鳥が多数見られたほか、鶏舎内の1階部分でカラス、2階部分でスズメの侵入が確認された。また、鶏舎裏でハシブトガラスの死体を確認した。
- ② 農場主によると、鶏舎内ではネズミをよく見かけるため、鶏舎内に殺鼠剤を設置していたとのこと。調査時、鶏舎の壁にはネズミ類にかじられたと思われる痕跡が多数確認され、鶏舎内でネズミの生体及び死体を確認した。
- ③ 農場主によると、鶏舎周辺ではネコやイタチを見かけることがあり、鶏舎内に中型動物用の罠を設置していたとのこと。調査時、鶏舎内で、ネコ等の動物によると思われる食害を受けた鶏の死体を多数認められた。
- ④ 農場周辺では、シカやイノシシを見かけるとのこと。調査時、農場敷地内のため池の横でシカのものと思われる糞を確認したほか、育雛舎付近でイノシシと思われる足跡を確認した。

(以上)